

「左馬助」の名が残る はちさぎ 蜂前神社文書

新野左馬助親矩公は、新野領主と伝えられています。古文書はもちろん、新野地区での菩提寺なども不明です。これについて、鈴木東洋氏は、「今川氏の一族で重臣のため、多くを駿府で過ごし、人生の後半は井伊谷で過ごしたであろう。そのため、新野地区との在地性は薄い印象を与える」と記しています。

井伊谷で唯一「左馬助」の名前が残る「蜂前神社文書」の「井伊直盛書状」は、弘治2年(1556年)に井伊直盛が新野左馬助と瀬戸方玖に宛てた書状で、左馬助の名が一級文書に現れる唯一のもので、井伊氏の所領経営に、新野左馬助が今川氏の目付家老として関与していたことを示す文書と考えられています。

なお、左馬助には「殿」を付け、方玖(政商・高利貸商人)には付けないことによって立場を明確にしています。

○蜂前神社文書

引佐郡中川村 蜂前神社蔵

九 井伊直盛書状

「左馬助殿」

方玖禪門

直盛

祝田鯉田年貢之事。近年源四郎・有申様廿貫文之相定候處。年々・水損就以外。而。連而佗言仕候間。後・年之事者。定成十四貫之相定。可納所之由。可被申付候。如此相定候上者。縦。雖。彼田地無田。可納所也。但此上も。有訴入。過分就納所仕者。田地を。可上置者也。爲後日二筆申候。恐々・謹言。

弘治貳年辰丙

十二月十八日

左馬助殿

方玖禪門

直盛(花押)

○杉原紙

○弘治二年一紀
元三二二六

○新野左馬助

○瀬戸方玖

▲蜂前神社文書(同公顕彰会「新野左馬助公の御人格を偲びて」より引用)

大河ドラマ「おんな城主 直虎」 応援プロジェクト

照会 社会教育課 ☎0548⑧1129

Atomic

暮らしと原子力

タイムスリップ!?
浜岡原子力発電所の歴史を探る

原子力発電所が立地する御前崎市で、子どもから大人までの幅広い年齢層が、原子力や放射線に関する正しい知識を習得してもらえるよう、市は、原子力に関するホームページを製作し、平成28年3月に公開しました。

今回製作したホームページは、子どもや子育て世代の年齢層を主な閲覧対象者としており、マンガで表現することで分かりやすさに配慮したホームページとしました。浜岡原子力発電所が立地された経緯や国のエネルギー政策に協力し、原子力発電所と共存共栄の考えのもとに歩んできた歴史、現在の原子力発電を取り巻く状況などをマンガで説明しています。

【第1章】タイムスリップ!? 不思議な生き物とエネルギー

【第2章】放射線ってなに? 御前崎市に原子力発電所がやってくる!

【第3章】電源交付金施設ってなに? 生活を豊かにした施設たち

【第4章】エネルギーミックス!? 未来のエネルギーについて考える

このほかに、放射線監視状況や安全性向上対策工事の進捗状況なども見ることができ、



▲3月に公開したホームページ